

万円が今までに入ってきて、その合計の130万円は、内部の現金のタンクに90万円、商品のタンクに40万円溜っていることを示している。

実際の営業活動について会計の計算をしようとすると、パイプの出入口やタンクの種類が沢山ある複雑な構造の道具を持ってこななければならない。このように、どんな流れの構造を持つ道具（モデル）を選ぶかということと、甲さんがやったように、取引の事実からどこのパイプのバルブを開いたらよいかの判断をすることが、会計の計

算でのポイントになる。

今回は、営業活動で生じる市場での取引の事実を資本の流れに置き換える考え方を述べた。次回には、簿記で行なわれる計算の手続きを、資本の流れ図で図解してみたい。さらに、先に示した「資本の流れの基本構造Ⅰ」では、借入金、売掛金、買掛金といった種類の勘定科目は扱えないので、これらのものも処理できる資本の流れの構造を導いてみることにしよう。

## 編集委員会より

「オペレーションズ・リサーチ」誌編集委員会におきましては、本誌を一層充実し、学会員の皆様のご希望に応えるべく、このたび「研究レポート」および「事例研究」の欄の取り扱いを下記のごとく刷新することいたしました。

本誌の記事にはいろいろな種類のものがありますが、そのうち研究レポートおよび事例研究をはじめいくつかのものは内容的に見ても質的に見ても独創的な研究と考えて少しも恥ずかしくないものと考えております。このことは、その中から当学会の事例研究奨励賞を受けるものすら出ていることから十分にかがえるものと思えます。

また、原稿の取扱い方にしても、複数の者がこまかく読み、内容的にも表現上の問題についても委員長が執筆者と納得のゆくまで話し合っ、必要な訂正等をお願いし、どうしても合意に達しえない場合には掲載をお断わりすることもしてきました。ですから、実質上も十分な審査の過程を経ているわけです。ただ、いろいろな種類の記事が雑居している本誌の性質上これを明記しないままにしてきました。

しかし、実学とアカデミズムとの新しい接点を確立して、ORの一層の振興と普及をはかるといことは、本学会の性格からしても、つねに努力しつづねばならない所であります。また、本誌におけるレフェリー制の明記についても、最近何人かの会員からの強いご要望もありました。

そこで、本誌編集委員会はもちろん、理事会、JORS J誌編集委員会等で検討した結果、次のような取

りきめの確認のもとで、これらの記事を「論文・研究レポート」および「論文・事例研究」と改め、審査論文とし、その「論文受理、日付」を記入することになりました。

会員の皆様のお役にたてば幸いとおもいます。それと同時に、従来にもまして、良い研究をどしどしご投稿くださるようお願いいたします。

### ①記事の種類

「論文・研究レポート」および「論文・事例研究」

### ②原稿の取扱い

投稿を原則とする。編集委員会は、別に定められた審査委員会より2名の審査員をえらんで審査を依頼、審査員は大綱における採否の原案を編集委員会に報告する。編集委員会はこれにもとづき、細部を検討、さらに、「オペレーションズ・リサーチ」誌編集委員長がその責任において、必要に応じて著者と連絡し、改訂等をもとめ、最終的な採否の決定をする。

### ③JORS J誌との関係

相互に独立な編集委員会がそれぞれ編集にあたるが、両者とも本学会の定期行物であることには変わりはないので、両委員会はできうる限り連携して活動をすすめる。

### ④論文の評価基準

ORの発展に寄与しうる独創的な研究であることが求められるのはいうまでもないが、独創性の意味については、ORの役割という点から判断するものとし、他の分野の価値観にとらわれない独自性の確立に努力する。

さらに、本誌とORの性格からして表現の具体性・明瞭性を必須の条件とする。